

## S市における子育て支援に関する保育士への臨床心理学的援助（資料） — 予備的調査 —

橘 玲子・運上 司子・伊藤真理子（新潟青陵大学大学院）  
真壁あさみ（新潟青陵大学看護福祉学部）

キーワード：子育て 保育士 臨床心理学的支援

### Clinical psychological supports to nursery teachers and child rearing in S.City (brief report).

Reiko TACHIBANA・Shisako UNJO・Mariko ITOH (Graduate school of Niigata Seiryō University)  
Asami MAKABE (Niigata Seiryō University, Department of Social Welfare)

Key words : child rearing, nursery teachers, support of clinical psychologist

#### I. はじめに

現在の日本は平均寿命が延びていく反面、小児化が急速に進み、何らかの国の施策が必要となってきた。平成15年7月には、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される社会の形成を目的として「次世代育成支援対策推進法」ができ、これに基づいて市町村において子育て支援対策が進められるようになってきている。S市も、この施策に関する具体的行動指針が検討されており、その一環として社会福祉課子育て支援室から新潟青陵大学大学院に具体的活動内容についてコンサルテーションが求められてきた。行政と心理臨床の専門家による協議の結果、これまでの子育て支援が主に保護者を対象に行われてきていることを考え、子育てを担っている保育士への支援を提案し、半年間の活動計画がまとまった。今回の報告は保育士への子ども理解を絵本によって深めること、保育士による子育て支援活動の調査という2つの視点からまとめたものである。

#### II. S市の子どもと家庭を取り巻く現状

S市は人口約10万人で、人口の推移は児童数の減少と老年人口の増加傾向である。地域の産業は農業を中心とする1次産業2,800人、製造業などの2次産

業23,000人、卸売業やサービス業など31,000人で、このうち女性の就労は1次産業から3次産業への移行が目立って増加している。また、市町村合併が行われて、新しい行政区としての歴史がまだ浅いことも特徴であろう。

保育園は平成15年現在公立27、私立6で就学前児童の2,087名（46%）が通園している（幼稚園は674名、約15%）。なお、家庭にいる児童は1,700名（38%）であった（以上の人数は三条・栄・下田次世代育成支援行動計画書、平成17年、からの資料で、パーセントは四捨五入による概数を示した）。なお、保育士は400名くらいと聞いている。

#### III. 保育士への支援計画と子育てについての質問調査

子育て支援は保護者にとって欠くことができない事業であるが、保育園で多くの時間を過ごす園児にかかわる保育士は子育て支援に欠かせない存在である。われわれが提供できる保育士への支援は①児童の心の理解を絵本によって行うこと、さらに②保育士が行う子育て支援、その際に必要な知識、ニーズなどの調査を実施し、保育士の現状把握をすることである。

大人が子どもに期待するのは活発で元気に遊ぶこ

とであろう。しかし子どもにとって活動的に遊ぶことだけが重要ではなく、静かなゆっくりとした体験も非常に大切である。静かな時間は情操面や心の豊かさ、あるいは創造的な世界が培われると理解することができる。このような体験の場を提供するものとして、絵本を子どもも自身が味わうこと、保育士が読み聞かせることを挙げるべきだと考えた。さらに絵本は保育士自身に対しても気持ちを癒し、しみじみとした感情の経験をj提供するはずである。心理臨床家は絵本の専門家ではないが、心理臨床活動をしていると絵本に触発されることが多いので、心理臨床家から子どもの心に触れると考えられる絵本を提供することにした。

絵本の講座を5回シリーズで行い、出席した保育士の子育て支援に関する質問紙による調査を行うことにした。実施期間は平成19年11月から平成20年3月までで、その内容を表1に示した。出席者は各保育園から2-3名で決まったメンバーではない。

表1 スケジュールと支援の内容

第1回	19、11、25	絵本講座①絵本の紹介 意味、臨床心理学と絵本、保育士への子育て支援に関する質問紙調査	絵本の紹介 絵本の意味、臨床心理学と絵本、保育士への子育て支援に関する質問紙調査
第2回	19、12、7	幼児の心理的特徴と対応(講義)	
第3回	19、12、14	絵本講座②	
第4回	20、1、25	絵本講座③	
第5回	20、2、22	絵本講座④保育士推薦の絵本を取り上げる	
第6回	20、3、7	絵本講座⑤絵本について保育士との討論 絵本についての質問紙	

#### IV. 子育て支援に関する調査

##### 1) 質問紙

保育士が子育て支援についてどのような内容の援助を行っているか、保育士が行う仕事、困っている点など、<子育て支援体制について> <子育て相談について>に分けて質問を実施した。質問紙は選択肢がいくつかあり複数回答も可能である。

##### <子育て支援態勢について>

- 1 あなたの勤務する保育所で行っている子育て支援にはどんなものがあるか
- 2 保護者が特に必要としている子育て支援は何か
- 3 保育士の立場から保護者に必要と考えている子

育て支援は何か

- 4 保育士として子育て支援を行う上で、必要としている研修やサポートはなんですか(3つ選ぶ)

##### <子育て相談について>

- 1 保育所では子育て相談を誰が担当しているか
- 2 子育て相談で、外部機関を紹介したり、連携して対応したことがあるか
- 3 これまで子育て相談を行った相談内容について
- 4 子育て支援を1人で対応するのに不安な相談内容は何か

##### <自由記述>

- 1 実際に子育て支援にかかわって感じている課題、考えていること、困っていることを自由に欠いてください。
- 2 好きな絵本、子どもが喜ぶ絵本を挙げてください。

##### 2) 回答結果

回答者の立場、年齢、経験年数などについての内訳を表2に示した。絵本の講義に出席した保育士は責任者で経験年数の高い人たちであった。

表2 保育士の特徴

回答数	79 (男3, 女76)	
年齢(平均)	46.6歳	
保育士経験年数	22.4年	
役職	保育所長	14名
	保育主任	18名
	クラス担当	34名
	臨時保育士	5名
	その他	8名
	(副主任、障害担当者など)	

1

質問紙への回答結果を表3、表4に示した。

表3 子育て支援体制

・現在行っている子育て支援	
時間外保育	68名
通所児個別相談	64名
遊び場提供	64名
通所児対象講座	40名
・保護者が必要としている支援とは	
コミュニケーションの場	42名
時間外保育	40名
遊び場	35名
病児保育	26名
通所児対象講座	21名
一時保育	21名
・保育士として必要と思う支援とは	
通所児個別相談	41名
コミュニケーションの場	40名
遊び場	34名
通所児対象講座	32名
時間外保育	23名

表4 子育て相談について

・子育て相談の担当者	
園長	75名
クラス主任	69名
保育主任	48名
随時	27名
・これまで経験した相談内容	
心理的発達	67名
育児不安	55名
身体的発達	54名
心身症	39名
家族の問題	37名
・必要と感じている研修・サポート	
心理的発達	51名
専門家からの支援	46名
親とのコミュニケーション	45名
問題行動	38名
子育て講座	22名
身体的不安	21名
・連携・紹介したことのある外部機関	
小児科	21名
児童相談所	19名
社会福祉課	18名
その他	7名
・1人では不安のある相談内容	
家族の問題	61名
身体的発達	56名
心身症	50名
心理的発達	35名
育児不安	19名

表3と4の結果から、保育園の行う子育て支援を次のようにまとめることができよう。

- ① 時間外保育、遊び場の提供、コミュニケーションの場などは保育園での子育て支援として重要な活動である。
- ② 病児の保育支援も今後の課題として意識されつつある。
- ③ 通園児の個別相談や保護者への講演など、子ども理解を進めることで、保育士は親教育の担い手として意識している。
- ④ 子育て相談は園長、クラス担当者など経験のある保育士が行っている。
- ⑤ 相談の内容は心理的発達が多く、続いて育児不安、身体的発達となっている。
- ⑥ 保育士は心理的発達には自信を持って対応できるようであるが、家庭の問題や子どもの心身症についての専門的知識については困惑しているようである。特に家族の問題では保護者自身の家族関係の悩みや経済的な悩みなどが想定されるもので、こういった相談には対応できないということであろうか。
- ⑦ 研修のニーズが高いのは、「親とのコミュニケーション」と「子どもの心理的発達、問題行動」であり、親とのコミュニケーションには⑥の内容が絡んでいるのかもしれない。
- ⑧ 専門職からの支援も半数以上が望んでいるが、現実には外部機関との連携はあまり行われてはいない。保育士自身が連携するという意識が必要と言える。
- ⑨ 家族の問題がクローズアップされており、子どもだけではなく家族関係などが何らかの問題を抱えており、その対応に苦慮しているようである。家族関係だけではなく、保護者の子育てに関する意識の問題なども関係するかもしれない。⑥と関連して考えなければならない項目である。
- ⑩ 自由記述については親とのコミュニケーションの難しさ、3世代家族の困難さ、保護者としての育児機能の脆弱さなどの指摘が見られた。保護者の権利意識などもあるのかもしれない。
- ⑪ 保育士としての職員間の葛藤や、親の立場に立つべきか子どもの立場に立つべきかで悩むなどの記述が見られた。しかし予想したよりもストレスフルな環境ではないのかもしれない。

## IV. 絵本講座に関して

保育士から挙げられた絵本は予想したよりも少なく、また個人差が非常にあり、絵本が好きな保育士とそうでない保育士との差が大きいことが明らかになった。参考までに心理臨床家が挙げた絵本・リスト

を表5に、保育士の挙げた絵本を表6にして示した。

なお、最終回に講座を聴いた感想やどのくらいの時間を絵本に使うか、絵本の入手ルートについても質問をしたのでそれらについて表7にまとめた。これによると、大多数の保育士が1週間に1時間以内

表5 心理臨床家が紹介した絵本

書名	作者	出版社
平成19年11月25日		
1. かいじゅうたちのいるところ	モーリス・センダック	富山房
2. しょうぼうじどうしゃじぶた	渡辺茂男 作 山本忠敬 絵	福音館書店
3. 三びきのやぎのらがらどん	北欧民話 マーシャープブラウン 絵	福音館書店
4. よあけ	ユリー・シュルヴィッツ 作・絵	福音館書店
5. せいめいのれきし	バージニア・リー・パトソン 作・絵	岩波書店
6. くんちゃんのだいらょこう	ドロシー・マリノ 作・絵	岩波書店
7. あおちゃんときいろちゃん	レオ・レオーニ 作・絵	至光社
8. スースーとネルネル	荒井良二 作・絵	偕成社
9. わたしのワンピース	にしやまかやこ 作・絵	こぐま社
10. わたしとあそんで	マリー・ホール・エッツ 作・絵	福音館書店
平成19年12月14日		
1. おじさんのかさ	作・絵 佐野洋子	講談社
2. わたしのぼうし	作・絵 さのようこ	ポプラ社
3. 月夜のみみずく	作 ヨーレン 絵 ショーエンヘル 訳 工藤直子	偕成社
4. 花咲き山	作 斉藤隆介 絵 滝平二郎	岩崎書店
平成20年1月25日		
1. シナの5人きょうだい	クレール・H・ビショップ	福音館書店
2. つるにようぼう	再話 矢川澄子 画 赤羽末吉	福音館書店
3. かにむかし	作 木下順二 絵 清水	岩波書店
平成20年2月22日		
1. 「うしろにいるのだあれ」 ーうみのなかまたちー	作 ふくだとしお	新風社
2. 「めっきらもっきら どおん どん」	作 長谷川摂子 画 ふりや なな	福音館書店
3. 「もったいなばあさん」	作 真珠まりこ	講談社
4. 「はらぺこあおむし」	作 エリック・カール 絵 もりやひさし	偕成社
5. 「スプーンおばさんちいさくなる」	アルフ・プリョイセン	偕成社
6. 「ラチとらいおん」	マレーク・ベロニカ	福音館書店
7. 「わすれられないおくりもの」	スーザン・バーレイ	評論社

\*太字は保育士からの推薦絵本

表6 保育士お勧め絵本のタイトル

タイトル	人数
らべこあおむし	9
はじめてのおつかい	7
めっきらもつきらど〜んどん	6
もったいないばあさん	6
グリとグラシリーズ	5
バムとケロシリーズ	5
14匹シリーズ	4
おいしいのぼうけん	4
花さき山	4
あかたろうシリーズ	3
そらまめくんしりーず	3
わにわにシリーズ	3
3匹のヤギのがらがらどん	3

2名の保育士の推薦

いやいやえん、お月さまこんばんは、恐竜の本、くずかごおばけ、さつまのおいも、しょうぼうじどうしゃじぶた、スイミー、そらいろのたね、ねずみくんシリーズ、ノンタン、ぶくちゃんシリーズ、へんしんトンネル、ほちほちいこか、もこもこ、ももたろう

表7 絵本講座へのアンケートから (42名回答)

保育士の1週間に読む時間	0-30分	10名
	31-60分	18名
	61-90分	4名
	91-120分	7名
	121-150分	3名
絵本の選択	園にあるもの	36名
	先輩の紹介	7名
	自分の趣味	31名
	学んだもの	13名
	他に 図書館、カタログやネット、無記名	
絵本を知ることによって子どものこころの理解に通ずるか	そう思う	31名
	そう思うこともある	9名
	そうは思わない	1名
印象に残っている絵本	シナの5人きょうだい	9名
	わすれられないおくりもの	6名
	おじさんのかさ	5名
	めっきらもつきら どおん どん	5名
	もったいないばあさん	5名

で、絵本と接する時間を持ち、絵本の選択は園にあるものか自分の趣味というのが多かった。自由記述からは受講生が絵本を楽しみ、味わっている様子が伺われた。自分の趣味で見ると絵本の選択の中が狭くなるという反省とか、絵本のメッセージについてもあまり考えたことがなかったと感想もあった。紹介されたのをすぐ買って読み聴かせたら、子どもたちが喜んだなどの素朴な感想もあった。1名だけ絵本は多様な理解が可能なのであるから子どものこころに絞って解釈することへの批判があった。

しかし全体の感じでは保育士の絵本に関する情報が限られており、たくさんの種類を読み聴かせなければならぬという意味とは異なるが、もっと絵本についての情報や絵本に触れる機会を保育士に提供すること、保育士に共有されたらよいのではないかがというのがわれわれの感想である。

## V. まとめ

以上予備的な保育士による子育て支援に関する調査ではあったが、今後の活動への示唆が得られた。一つは保育士へのコンサルテーションをどのように行うかをもう少し体系的な意識調査を行うこと、絵本に関する情報の提供と絵本の持つ意味を考えることを通して、子育てを明確に位置づけること、保育士へのコンサルテーションをどのような形で行うかなどはつきりさせていく必要がある。保護者も子どもの理解を進めなければいけないが、保育士自身も子育て支援の一員として意識する必要性があるのではないかと思われた。

なお、本報告は平成20年度文部科学省の科学研究費により、行政の協力を得て更に展開していく予定である。